

ブロッコリー調査方法

1 試験区ならびに調査対象株数及び面積

項 目	必要株数(最少株数)	必要面積(最小面積)*
試験区(1区当り)	4畝×12株=48株(4畝×7株=28株)	14.1m ² (8.2m ²)
調査対象(1区当り)	生育調査等	20株(10株)
	収量調査等	20株(10株)

* : 栽植密度を畝幅70cm×株間42cm、a当り340株としたときの面積

2 耕種概要

項 目	単 位	備 考
栽植密度	株数	(株/a)
	畝幅	(cm)
	株間	(cm)
1区面積		(m ²)
反復数		(反復)
播種期		(月 日)
セルの種類、穴数等		(穴)
使用した培土名		
定植期		(月 日)
中耕培土等		(月 日、月 日)
前作物		()
堆肥施用		(t/a、月 日)
基肥量	N	(kg/a)
	P ₂ O ₅	(kg/a)
	K ₂ O	(kg/a)
追肥量	N	(kg/a)
	P ₂ O ₅	(kg/a)
	K ₂ O	(kg/a)
追肥施用日		(月 日、月 日)
土壌区分		
土性		
腐植		
除草剤・病害虫防除		

3 生育調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査
出 芽	期	播種粒数の40～50%が出芽した日	A	観察	月日	1
	率	播種後10日目出芽割合	A	測算	%	1
	奇形株率	20日目頃（双葉が1枚,3枚等）	B	測算	%	1
定植時の苗質	葉数	葉長2.5cm以上の葉	A	測算	枚	1
	苗の全長	地際から最大葉先端部までの長さ	A	測定	cm	0.1
	葉長	最大葉長	A	測定	cm	0.1
出 蕾*1	始 期	10%の株が出蕾した日	B	観察	月日	1
	期	40～50%の株が出蕾した日	A	観察	月日	1
生 育(収穫期)	葉 数	生葉数	A	測算	枚	1
	葉 長	最大葉で測定	A	測定	cm	1
	葉 幅	最大葉で測定	A	測定	cm	1
	茎長	地際から花蕾上端までの高さ	A	測定	cm	1
	茎径	収穫調整品の茎径	A	測定	mm	1
収 穫	始 期	10%の株が収穫可能な日	B	観察	月日	1
	期	40～50%の株が収穫可能な日	A	観察	月日	1
	終 期	収穫を終えた日又は収穫打ち切り日	B	観察	月日	1
	日 数	収穫始期から終期までの日数 (収穫始期と収穫終期を含める。実際に収穫を行った日の合計ではなく、収穫期間とする)	A	算出	日	1
花蕾発育日数		出蕾期から収穫期までの日数	A	算出	日	1
生育日数		播種期から収穫期までの日数	A	算出	日	1
障害の発生程度	病 害	花蕾腐敗病 軟腐病 など	障害の種類別に発生株率で 0:無 発生が認められない 1:微 10%未満の株に発生 2:少 10～20%未満の株に発生 3:多 20～40%未満の株に発生 4:甚 40%以上の株に発生	A	観察	指数
		虫 害				
	リーフィー					
	不整形					
生理障害	茎の割れ など	各障害の発生程度0無～4甚の基準は、各障害で変更しても良い。その場合は、基準を明記する。				

*1 花蕾がピンポン玉大となった時を出蕾とする

4 特性調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査	
収穫不能株数		収穫不能な病虫害および未花蕾株	A	測算	株	1	
収穫花蕾数	規格内	3L	出荷基準による 花蕾径 13cm以上	A	測定	個	1
		2L	11～13cm未満	A	測定	個	1
		L	10～11cm未満	A	測定	個	1
		M	8～10cm未満	A	測定	個	1
			(軽微な生理障害花蕾を含む)				
	計		A	算出	個	1	
	規格外	障害株(病虫害、生理障害) および 花蕾径規格未達株など	A	測算	個	1	
合計			B	算出	個	1	
規格別収量	規格内	3L	出荷基準による 花蕾径 13cm以上	A	測定	kg	1
		2L	11～13cm未満	A	測定	kg	1
		L	10～11cm未満	A	測定	kg	1
		M	8～10cm未満	A	測定	kg	1
		計		A	算出	kg	1
	規格外	軽微な生理障害花蕾を含む	A	測定	kg	1	
	合計			B	算出	kg	1
規格外の各障害発生率	病虫害 花蕾腐敗病	$(\text{個数(株数)} / \text{栽植株数}) \times 100$	A	算出	%	1	
	生理障害 ボトニング(バトニング) リーフィー 不整形 キャッツアイ ブラウンビーズ その他	$(\text{個数(株数)} / \text{栽植株数}) \times 100$	A	算出	%	1	
	その他	花蕾径規格未達株など	A	算出	%	1	
	平均花蕾重		$(\text{規格内収量}) / (\text{規格内花蕾数})$	B	算出	g	1
欠株率		$[\{\text{栽植株数} - (\text{障害株数} + \text{収穫株数})\} / \text{栽植株数}] \times 100$	A	算出	%	1	

5 特性調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査
花蕾特性	花蕾腐敗病	[少]5～[並]3～[多]1	A	観察	指数	1
	形状	[平]4～[やや丸]3～[丸]2～[尖]1	A	観察	指数	1
	しまり	[堅い]5～[中]3～[ゆるい]1	A	観察	指数	1
	凹凸	[少]5～[中]3～[多]1	A	観察	指数	1
	粒揃い	[良]5～[並]3～[不良]1	A	観察	指数	1
	ボリューム感	[良]5～[並]3～[不良]1	A	観察	指数	1
	茎空洞	収穫時の茎切断部位で判定 [無]5、[微]3、[多]1 (茎の空洞は、空洞の大きさや、出現する割合、空洞の状態(色やとろけなど)も観察する)	A	観察	指数	1
	アントシアン	[無]5、[微]3、[多]1	A	観察	指数	1
総合評価		[良]5～[標準]3～[不良]1	A	観察	指数	1

6 調査試験栽培上の留意点

- 1) コート種子と普通種子では、吸水が異なる場合があるので、十分な散水を心がけ、均一な発芽を促す。
- 2) 一斉収穫ではなく、規格に達した株ごとに収穫調査を行う。
- 3) 出荷基準の花蕾径は、地域での出荷基準に合わせる。
- 4) 各障害の発生程度について、発生株割合が高くて、症状(程度)が軽く、収穫花蕾を規格内とする場合は、その旨をコメント等で記載する。
(例. リーフィーが発生株率が80%であるが、70%は症状の程度が軽い(花蕾から葉1-2枚がわずかに見える程度で、当地域の出荷基準では規格内と判断される。)場合、障害の発生程度は「4:甚」となるが、規格外の各障害発生率(%)は10%となる)